

第6章 美術

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに，感性を豊かにし，美術の基礎的能力を伸ばし，豊かな情操を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

美術への関心 ・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み，その喜びを味わい，美術を愛好していこうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に，豊かに発想し，よさや美しさなどを考え，心豊かで創造的な表現の構想をする。	表現の技能を身に付け，造形感覚や感性などを働かせ，自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す。	美術作品や文化遺産などに親しみ，感性や想像力を働かせてよさや美しさなどを感じ取り味わったり，理解したりする。

3 内容のまとめりとごとの評価規準の設定

美術科においては，学習指導要領の内容の「A 表現 (1) 絵や彫刻などに表現する活動」，「A 表現 (2) デザインや工芸などに表現する活動」，及び「B 鑑賞の活動」を内容のまとめりととして，これらごとに評価規準を作成した。

第2 内容のまとめりとごとの評価規準及びその具体例

第1学年

1 学年目標

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い，心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- (2) 対象を深く観察する力，感性や想像力を高め，豊かに発想し構想する能力や基礎的技能を身に付け，多様な表現方法や造形要素に関心をもち，創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
- (3) 自然や美術作品などについての基礎的理解や見方を広げ，よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力を育てる。

2 第1学年の評価の観点の趣旨

美術への関心 ・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自然や身近なもの，美術作品などのよさや美しさに対する関心をもち，意欲的に美術の基礎的能力を身に付けようとし，それを生かして楽しく表現や鑑賞の創造活動に取り組み，美術を愛好していこうとする。	感性や想像力を働かせて，自然や身近なものを観察しよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりして，豊かに発想し構想する能力を身に付け，形や色の構成などを工夫し，自分らしく心豊かな表現の構想をする。	スケッチ，形体や色彩の表し方など美術の基礎的技能を身に付け，造形感覚や感性，想像力などを働かせ，表現方法を創意工夫し，美しく表す。	自然，美術作品や生活の中の造形などに親しみ，感性や想像力を働かせてよさや美しさ，作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り味わったり，生活の中の美術の働きなどについて理解や見方を広げたりする。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりとごとの評価規準及びその具体例

(1) A 表現 (1) 絵や彫刻などに表現する活動

【学習指導要領の内容】

-
- (1) 絵や彫刻などに表現する活動を通して，次のことができるよう指導する。
-

- ア 自然や身近なものを観察し、形や色彩の特徴や美しさなどをとらえスケッチをすること。
- イ 対象を見つめ感じ取ったよさや美しさ、想像したことなどを基に主題を発想し、全体と部分との関係を考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
- ウ 描画における形や色彩の表し方、彫刻などにおける立体としてのものの見方や形体の表し方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付けること。
- エ 自分の表したい感じを大切に多様な表現方法を工夫し、絵やイラストレーション、彫刻などに美しく生き生きと表現すること。

【「(1)絵や彫刻などに表現する活動」の評価規準】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
自然や身近なもののよさや美しさ 表現方法などに関心をもち、意欲的に美術の基礎的能力を身に付けようとし、それを生かして楽しく表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい美術を愛好していこうとする。	ものの見方・感じ方を深め、感性や想像力を働かせて自然や身近なものを深く観察しよさや美しさなどを感じ取ったり気付いたりして、想像力を働かせ豊かに発想し構想する基礎的能力を身に付け、形や色で美しく生き生きと表す表現の構想をする。	観察しスケッチする力、形体や色彩の表し方、材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付け、感性や想像力、造形感覚などを働かせ、表現意図に合う多様な表現方法を創意工夫し、美しく表す。

【「(1)絵や彫刻などに表現する活動」の評価規準の具体例】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
<ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標をもって楽しく絵や彫刻などの活動に取り組み、その喜びを味わい美術を愛好していこうとする。 ・楽しく生き生きと表現している。 ・向上しようと創意工夫し努力している。 ・自然や身近なものを深く観察し、よさや美しさなどを感じ取ったり発見したりしようとする。 ・自ら継続的に楽しく取り組み向上の喜びを味わい、基礎的技能を身に付けようとする。 ・創意工夫したり新しいことを発想したりすることを楽しんでいる。 ・目標や自らの課題意識(主題)をもっている。 ・自分らしくよりよい表現を目指して試行錯誤をしつつ創意工夫しようとする。 ・表現の過程で常に創意工夫しよりよい表現を追求しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの見方・感じ方を深め発想を豊かにする。 ・自然や身近なものを新鮮な見方や感覚で深く観察し、形や色彩の特徴、よさや美しさなどを感じ取り、想像力を働かせて豊かに主題を発想する。 ・楽しさや美しさ、材料の形や特徴などから想像力を働かせて豊かに発想し構想する。 ・よさや美しさ、生命感、情感などを大切に、感性や造形感覚、想像力などを働かせ自分らしく生き生きとした表現の構想を練る。 ・構図、全体と部分との関係やバランス、変化と統一などを考えて創造的な構成を工夫し構想を練る。 ・自分の表現の意図や構想、表現方法などを自己確認し、よりよいものにまとめ上げようと創意工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩の特徴や美しさなどをとらえ、自分なりの方法でスケッチをする。 ・描画におけるものの見方、構図、形や色彩の表し方、表現意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付けている。 ・彫刻などにおける立体としてのものの見方や形体の表し方や意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付けている。 ・感性、造形感覚や美的感覚など働かせ、材料や用具を効果的に生かして美しく創造的に表現する。 ・自分の主題や表したい感じを大切に、生き生きと表現する。 ・様々な表現方法を工夫し、よりよいものにしようとして創意工夫する。

(2) A表現 (2)デザインや工芸などに表現する活動

【学習指導要領の内容】

- (2) デザインや工芸などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。
 - ア 形や色彩、材料、光などがもたらす性質や感情を理解し、機能的な生かし方を考え、美的感覚を働かせて美しく構成したり装飾したりすること。

イ 用途や機能，使用する者の気持ち，材料などから発想し構想を練り，つくり方，意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付け，造形感覚を働かせ創意工夫してつくること。

ウ 伝えたい内容を図や写真・ビデオ・コンピュータ等映像メディアなどで，効果的で美しく表現し伝達・交流すること。

【「(2)デザインや工芸などに表現する活動」の評価規準】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
生活の中のデザインや工芸のよさや美しさ，造形要素，表現方法などに関心をもち，意欲的に美術の基礎的能力を身に付けようとし，それを生かして楽しく表現や鑑賞の創造活動に取り組み，その喜びを味わい美術を愛好していこうとする。	ものの見方・感じ方を深め，感性や想像力を働かせて用途や機能，使用する者の気持ちなどを考え，豊かに発想し構想する基礎的能力を身に付け，形や色彩，材料などの構成を工夫し，美しく心豊かな表現の構想をする。	デザインがもたらす性質や感情を理解し，つくり方や意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付け，感性や想像力，造形感覚などを働かせ，創意工夫し，美しく表す。

【「(2)デザインや工芸などに表現する活動」の評価規準の具体例】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
<ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標をもって楽しくデザインや工芸などの活動に取り組み，その喜びを味わい美術を愛好していこうとする。 ・生き生きと楽しく表現している。 ・向上しようとして努力している。 ・生活の中のデザインや工芸などに関心をもち，感性や美的感覚を働かせてよさや美しさなどを感じ取ろうとする。 ・見る人や使う人の気持ちや条件などを考え，人に優しい心豊かなものをつくらうとしている。 ・目標や自らの課題意識(主題)をもっている。 ・自ら進んで発想・構想の能力や表現の基礎的技能を身に付けようとする。 ・自分らしくよりよい表現を目指して試行錯誤をしつつ創意工夫をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの見方・感じ方を深め発想を豊かにする。 ・生活の中のデザインや工芸などを基に感性や美的感覚を働かせてよさや美しさ，用途や機能，使用する者の気持ちを考えて発想する。 ・材料のもつ性質や特質を理解し自分らしい発想をする。 ・必要や表現意図に応じて材料や用具を生かす構想をする。 ・映像メディアを利用し，自分の表現意図に応じて美しく効果的な表現を構想する。 ・自分の表現意図や構想、表現方法などを自己確認し，よりよいものにまとめ上げようと創意工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用途や機能，使用する者の気持ちを考え，他者への思いやりの心に基づいて創意工夫して表現する。 ・造形要素に対する感性を高め，その性質を理解し表現に生かす。 ・造形要素を豊かな美的感覚で選び出し，美しく構成したり，デザインする。 ・材料や用具の特性や生かし方，使い方，つくり方などの基礎的技能を身に付けている。 ・創意工夫してつくる。 ・伝えたい内容を映像メディアなどで，効果的で美しく表現する。

(3) B 鑑賞の活動

【学習指導要領の内容】

鑑賞の活動を通して，次のことができるよう指導する。

ア 想像力を働かせ，美術作品や児童生徒の表現などに表された作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り，作品の見方を広げ，多様な表現のよさや美しさなどを味わい，鑑賞に親しむこと。

イ 生活の中のデザインや伝統的な工芸を鑑賞し，豊かな発想と工夫，美と機能性の調和，作品に託された願いと造形的なよさなどに気付き，生活におけるデザインや工芸の働きについて理解すること。

【「B鑑賞の活動」の評価規準】

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
自然，美術作品や生活の中の造形などの鑑賞に親しみ，意欲的によさや美しさなどを味わったり作品などに対する理解や見方を広げたりして，その喜びを味わい，美術を愛好していこうとする。	感性や想像力を働かせ，作者の心情や意図と表現の工夫，多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わい，美術作品や生活の中の造形などについて見方を広げたり，生活における美術の働きについて理解したりする。

【「鑑賞の活動」の評価規準の具体例】

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞することを楽しんでいる。 ・自然，美術作品や児童生徒の表現などに親しみ，そのよさや美しさ，鑑賞の喜びなどを味わおうとする。 ・生活の中のデザインや伝統的な工芸などに親しみ，そのよさや美しさなどを味わおうとする。 ・美術作品や生活の中の造形などに対する見方を広げ，様々な作品などを意欲的に鑑賞し，美術を愛好していこうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせて，自分の見方や感じ方で作者の心情や意図と表現の工夫，よさや美しさなどを感じ取る。 ・いろいろな見方や感じ方や発想の仕方，知識等を学び取り，多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わう。 ・生活の中に美術が様々に用いられていることや美と機能性とのかわりに気付き，その働きについて理解する。

第2学年及び第3学年

1 学年目標

- (1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め，心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- (2) 対象を深く見つめる力，感性や想像力を一層深め，独創的・総合的な見方や考え方を培い，豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。
- (3) 自然，美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め，心豊かに生きることと美術とのかわりに関心をもち，よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

2 第2学年及び第3学年の観点の趣旨

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自然や身近なもの，美術作品などのよさや美しさ，美術文化や文化遺産などに対する関心を高め，自分のよさを生かして表現や鑑賞の創造活動に主体的に取り組み，美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。	感性や想像力を働かせて，対象やものごとを深く見つめよさや美しさなどを感じ取ったり考えたり，用途や機能を考えたりして，独創的で豊かな発想をし，心豊かで創造的な表現の構想をする。	感じ取ったことや心の世界などをスケッチに表し，想像力や創造的な技能などを働かせ，表現意図に合う新たな表現方法を研究するなどして創意工夫し，創造的に表す。	自然，美術作品や生活の中の造形，美術文化や文化遺産などに親しみ，感性や想像力を働かせてよさや美しさ，作者の心情や意図と表現の工夫，創造力の豊かさなどを感じ取り味わったり，理解や見方を深めたりする。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) A表現 (1)絵や彫刻などに表現する活動

【学習指導要領の内容】

- (1) 絵や彫刻などに表現する活動を通して，次のことができるよう指導する。
- ア 対象を深く見つめ感じ取ったこと，考えたこと，夢，想像や感情など心の世界をスケッチに表すこと。
 - イ 主題を発想し，スケッチなどを基に想像力を働かせ，単純化や省略，強調，構成の仕方，

材料の組合せなどを工夫し、心豊かな表現の構想を練ること。
 ウ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式や構成、技法などに関心をもち、自分の表現に合う新たな表現方法を研究するなどして創造的に表現すること。
 エ 表したい内容を漫画やイラストレーション、写真・ビデオ・コンピュータ等映像メディアなどで表現すること。

【「(1)絵や彫刻などに表現する活動」の評価規準】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
自然や身近なもの、美術作品などのよさや美しさ、独特な表現方法などに関心を深め、夢や目標をもち、自分のよさを生かして創造活動に主体的に取り組み自己実現の喜びを味わい、美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、夢や心の世界などを基に、単純化や省略、強調するなどして独創的で豊かな発想や構成を工夫し、心豊かで創造的な表現の構想をする。	感じ取ったことや想像したことなど心の世界をスケッチに表したり、主題を基に想像力や創造的な技能などを働かせたり、様々な表現形式や構成、技法など新たな表現方法を研究したりして、創意工夫し創造的に表す。

【「(1)絵や彫刻などに表現する活動」の評価規準の具体例】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
<ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標、課題意識をもって絵や彫刻などの創造活動に主体的に取り組み、自己実現の喜びを味わい美術を愛好していこうとする。 ・対象を深く見つめ、意欲的に内面的価値を感じ取るようにする。 ・自分らしいスケッチの表現の仕方を創意工夫しながら継続的に親しんでいこうとする。 ・自然や身近なもの、美術作品などのよさや美しさ、独特な表現形式や表現方法などに関心を深くもっている。 ・自ら進んで創造的な発想・構想をし、自分らしくよりよい表現を創造しようと試行錯誤を重ねながら工夫しようとする。 ・身に付けた能力や感性、造形経験、自分のよさなどを生かして美術を愛好し、心豊かな生活を創造していこうとする。 ・自分の作品に愛着をもち、大切にす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を深く働かせて対象などの内面的価値などを感じ取り主題を発想し、スケッチなどを基に想像力を広げ豊かな構想をする。 ・夢や想像などから心豊かな表現の構想をする。 ・独創的・総合的なものの見方や考え方をし豊かな発想・構想をする。 ・単純化や省略、強調、構成の仕方、材料の組合せなどを工夫して心豊かな表現の構想を練る。 ・表現の過程を通して自己確認をし、より創造的な表現を目指して創意工夫・修正をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象を深く見つめ感じ取ったことや心の世界などを、自分の表現方法を工夫してスケッチに表す。 ・多様な表現方法や材料などの生かし方を工夫し創造的に表現する。 ・日本及び諸外国の独特な表現形式や構成、技法などのよさを生かしたり、新たな表現方法を研究したりして多様な工夫をし創造的な表現の幅を広げる。 ・自分の経験や知識、想像力などを生かし、創意工夫して独創的な表現方法やダイナミックな表現を工夫する。 ・表したい内容を漫画やイラストレーション、映像メディア等の特質を生かして、楽しくわかりやすく表現する。

(2) A表現 (2)デザインや工芸などに表現する活動

【学習指導要領の内容】

(2) デザインや工芸などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。
 ア デザインの効果を考え、形や色彩、図柄、材料、光などの構成を簡潔にしたり総合化したり、取り合わせを工夫するなどして、美しく心豊かなデザインをすること。
 イ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像などから独創的に発想し、造形的な美しさ、材料

や用具の生かし方などを総合的に考え、創意工夫してつくること。
 ウ 伝えたい内容をイラストレーションや図、写真・ビデオ・コンピュータ等映像メディアなどで、分かりやすく美しく表現し、発表したり交流したりすること。
 エ 身近な環境について、安らぎや自然との共生などの視点から心豊かなデザインをすること。

【「(2)デザインや工芸などに表現する活動」の評価規準】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
生活の中のデザインや工芸，独特な表現方法などに関心を深め，夢や目標をもち，自分のよさを生かして創造活動に主体的に取り組み自己実現の喜びを味わい，美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。	夢や想像，使用する者の気持ちや機能，自然との共生，デザインの効果などを考え，感性や想像力を働かせ独創的・総合的に考えて豊かな発想や構成を工夫し，心豊かな表現の構想をする。	造形感覚，感性や創造的な技能を働かせ，形や色彩，材料や用具の効果的な生かし方などを総合的に考え，表現意図に合う表現方法を創意工夫し，美しく創造的に表す。

【「(2)デザインや工芸などに表現する活動」の評価規準の具体例】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
<ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標，課題意識をもってデザインや工芸などの創造活動に主体的に取り組み，自己実現の喜びを味わい美術を愛好していこうとする。 ・デザインの効果や構成の仕方，創意工夫の仕方に関心をもち。 ・デザインや工芸などに関心をもち感性を働かせ創造活動に主体的にかかわろうとする。 ・自然や美しいものに素直に感動したり，独特な表現方法などに関心を深くもち，それを表現に生かそうとする。 ・多様なものの方角をもって発想し，心豊かなデザインを創意工夫しようとする。 ・試行錯誤を通して自分らしい表現を創意工夫し創造しようとする。 ・他者を思いやっけてデザインをしようとする。 ・他者の表現のよさに気づき自分の表現に生かそうとする。 ・創意工夫し創造的な発想・構想や自分らしい表現をしようとする。 ・身に付けた能力や感性、造形経験，自分のよさを生かして美術を愛好し，心豊かな生活を創造しようとする。 ・自分の作品に愛着をもち、大切にす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する者の気持ちや機能，調査などから得た情報，夢や想像などから豊かに発想する。 ・他者の発想や表現を知り，そのよさを生かして自分らしく豊かな発想をする。 ・独創的・総合的なものの方角や考え方，自分らしい造形感覚の生かし方などをして豊かに発想し構想する。 ・自然の中に見出せる形や色彩，仕組みなどからヒントを得たり想像力を働かせて見立てたりして斬新で独創的な発想・構想を練る。 ・伝統工芸や伝統文化などから造形的なよさや美しさ，創造力の豊かさなどを味わい，それを生かして豊かに発想し構想を練る。 ・材料を吟味しその持ち味を大切にし，生かし方を考えて発想し構想する。 ・安らぎや自然との共生の視点から環境を考え，人間と自然が共生できる心豊かな環境のデザインを構想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用と美の調和について感性や美意識，造形感覚などを豊かに働かせ，効果的で美しい表現をする。 ・日本及び諸外国の独特で美しい表現方法や構成，技法などに関心をもち，そのよさや美しさを表現に生かす。 ・材料の特性を考え吟味し，表現に生かす。 ・表現意図と表現の方法や技法との適否，美しさなどを総合的に考えながら自分らしく創造的な工夫をして表現する。 ・伝達するための多様な表現方法を理解し，自分の伝えたい内容に合う方法を選択する。 ・伝えたい内容や情報を映像メディアなどで相手に分かりやすく美しく表現する。 ・独創的な表現方法やダイナミックな表現を工夫する。

(3) B鑑賞の活動

【学習指導要領の内容】

鑑賞の活動を通して、次のことができるよう指導する。

ア 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを理解し見方を深め、作品に対する自分の価値意識をもって批評し合い、よさや美しさを幅広く味わうこと。

イ 日本の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べたり、それらの作品を鑑賞したりして、日本の美術や文化と伝統に対する理解と愛情を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めること。

ウ 日本及び諸外国の美術の文化遺産を鑑賞し、表現の相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさ、創造力の豊かさなどを味わい、文化遺産を尊重するとともに、美術を通じた国際理解を深めること。

エ 現代及び文化遺産としてのデザインの洗練された美しさなどを感じ取り、自己の美意識や美的選択能力を高めること。

オ 美術作品や生活の中の造形に取り入れられている自然のよさや美しさ、素材の生かし方などを感じ取り、自然や生活と美術との深いかかわりを理解すること。

【「B鑑賞の活動」の評価規準】

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
自然、美術作品や生活の中の造形、美術文化や文化遺産などの鑑賞に親しみ、美術文化の継承と創造、心豊かに生きることと美術とのかかわりなどに関心をもって鑑賞する喜びを味わい、美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。	感性や想像力を働かせて、よさや美しさ、作者の心情、創造力の豊かさ、自然や生活と美術とのかかわりなどを感じ取り深く味わったり、自分の価値意識をもって批評し合ったり、日本及び諸外国の美術作品の特質、美術文化や文化遺産などの特質、文化と伝統などについての理解や見方を深めたりする。

【「B鑑賞の活動」の評価規準の具体例】

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞する喜びを味わい、自然や生活と美術との深いかかわりを理解し、美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。 作品や作者、美術文化や歴史などに興味をもち自ら調べたり、いろいろなものを意欲的に鑑賞しようとしたりしている。 自然、美術作品や生活の中の造形、美術文化や文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさ創造力の豊かさなどを感じ取り味わい、美術を愛好していこうとする。 美術文化や文化遺産などに対する関心を高め、そそれを尊重し、国際理解を深めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 感性や想像力を働かせて、自分の価値意識を大切にしながら美術作品や文化遺産等のよさや美しさなど感じ取り味わったり、批評し合ったりする。 作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り理解し見方を深める。 自然や生活の中の造形的なよさや美しさを深く感じ取り、生活を心豊かにする美術の働きについて理解する。 生活の中の造形物を観察し、デザインの洗練された美しさなどを感じ取り美的選択能力を高める。 日本の美術の概括的な変遷や作品の特質について課題をもって調べたり理解したりする。 様々な美術作品、美術文化や文化遺産などを鑑賞し、その特質や相違と共通性に気付き、美術文化とそれを通じた国際理解を深める。 文化や伝統として受け継がれてきた独自の美意識や創造的精神などについて理解し、ものの見方や感じ方を深める。

第3 題材の評価に関する事例

ここでは実際の題材を基に指導と評価の参考例を示す。

題材例としては、「A表現」と「B鑑賞」の双方の学習活動が一体的に展開される事例として、第2・3学年の「日本の美術の表現の事例」を示す。

題材名 「日本の美術のステキな世界 - 日本の美術の表現を生かして - 」 第3学年 <学習指導要領 A表現(1)絵や彫刻などに表現する活動及びB鑑賞の活動> (8時間)

1 題材の目標

日本の美術のよさや美しさ、多様な表現方法や表現形式などについての理解を深め、それらを生かし自分の考えや想像を広げて発想し、心豊かで美しく創造的な表現をする。

2 題材の評価規準

内容のまとめりごとの評価規準			
美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表 自然や身近なもの、美術作品などのよさや美しさ、独特な表現方法などに関心を深め、夢や目標をもち、自分のよさを生かして創造活動に主体的に取り組み自己実現の喜びを味わい、美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。 鑑 自然、美術作品や生活の中の造形、美術文化や文化遺産などの鑑賞に親しみ、美術文化の継承と創造、心豊かに生きることと美術とのかかわりなどに関心をもち鑑賞する喜びを味わい、美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、夢や心の世界などを基に、単純化や省略、強調するなどして独創的で豊かな発想や構成を工夫し、心豊かで創造的な表現の構想をする。	感じ取ったことや想像したことなどの心の世界をスケッチに表したり、主題を基に想像力や創造的な技能などを働かせたり、様々な表現形式や構成、技法など新たな表現方法を研究したりして、創意工夫し創造的に表す。	感性や想像力を働かせて、よさや美しさ、作者の心情、創造力の豊かさ、自然や生活と美術とのかかわりなどを感じ取り深く味わったり、自分の価値意識をもって批評し合ったり、日本及び諸外国の美術作品の特質、美術文化や文化遺産などの特質、文化と伝統などについての理解や見方を深めたりする。
題材の評価規準			
表鑑 日本の美術作品の多様な表現形式や独特な表現方法や生活とのかかわりなどに関心を深め、鑑賞する喜びを味わったり主体的に調査活動に取り組み理解を深めたり創造活動に取り組み自己実現の喜びを味わい、美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、夢や心の世界を基に自分の表現主題に合うよう単純化や省略、強調するなどして、独創的で豊かな発想をし、心豊かで創造的な表現の構想をすることができる。	日本の美術の多様な表現形式や構成、技法や新たな表現方法を研究したり、考えたことや想像したことなど心の世界をスケッチに表したり、主題を基に想像力や創造的な技能などを働かせたりして、創意工夫し創造的に表すことができる。	感性や想像力を働かせて、日本の美術のよさや美しさ、作者の心情、創造力の豊かさ、自然や生活と美術とのかかわりなどを感じ取り深く味わったり、自分の価値意識をもって批評し合ったり、日本の美術について理解し合ったりして見方を深めることができる。

3 指導と評価の計画

次に示す学習活動の具体的評価規準の中の、は各観点の評価場面の順序を、**Aとするキーワード**は十分満足できると判断する際のキーワードを、は評価場面や評価方法を、**<Cの状況の生徒への手だて>**は実現状況が「努力を要する」と判断される生徒に対する手だてを示す。

また、学習活動の表の各観点の中が余白になっている部分については、評価場面を絞り込んで示してあることと、学習の時程の進度に合わせて評価することが分かるようにするため空白にしてある。

時間	ねらい ・学習活動	学習活動の具体的評価規準			
		美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	日本の美術作品に見られる多様な表現方法や表現形式のよさや美しさ、意図と工夫を理解する。 ・日本の美術の多様な表現形式や表現方法のよさや美しさ、特質をとら	鑑 日本の美術に強く関心をもち、そのよさや美しさ、表現の特質などを強く感じ取り鑑賞活動に取り組んでいる。 Aとするキーワード ・意欲的に ・課題意識をもって ・理解を深めようと			日本の美術の多様な表現形式や表現方法のよさや美しさ、特質をとらえたり、味わうことができる。 Aとするキーワード ・よさや価値を見出し ・既習の表現形式や表現技法の相違点に気付き 鑑賞ビデオや鑑賞資

<p>えたり味わったりする。 (教科書, 図書資料, ビデオ鑑賞資料使用)</p>	<p>提示された鑑賞資料に興味・関心を示しているかどうかを生徒の様子やプリントの学習状況から判断する</p>			<p>料, 図書資料等の内容についての理解の様子を鑑賞カードや学期末テストの状況などから見る</p>
<p>2 参考資料, ビデオ, インターネット資料から興味・関心をもった作品や作家, 時代などの自分の課題を選択し, 調べ, 理解を深める学習活動をする。 ・日本の美術の作品や作者についての課題学習を通して, そのよさを味わうことができる。 (参考資料, ビデオ, インターネット資料)</p>	<p><この状況の生徒への手だて> 興味を喚起するためにわかりやすく個別指導する。</p> <p>表 関心を抱いた内容から課題を選択・決定し, 自分の表現活動に生かせるように調査活動に意欲的な姿勢で臨んでいる。</p> <p>Aとするキーワード ・課題が明確 ・自分の視点から ・計画立てて ・主体的で積極的 ・より深く追求</p> <p>興味・関心を抱いて作業に臨んでいるかどうかを調査プリントの記述内容や調査に臨む姿勢から判断する</p>			<p>自分が興味・関心をもった日本の美術の時代や作品, 作者について理解し, 深く味わいそのよさをまとめることができる。</p> <p>Aとするキーワード ・多様な見方で ・様々な角度から見方を広げ ・自分の言葉でわかりやすく説明</p> <p>研究レポートや調査資料に書かれている内容の情報量やまとめの質によって判断する</p> <p><この状況の生徒への手だて> 様々な資料等を活用し, 個別に指導しまとめ上げるようにさせる。</p>
<p>3 調査を深めた内容についての情報交換から表現について理解をさらに深める。 ・自分の表したい主題を発想し, 様々な表現形式や表現方法から自分らしい独自の表現を構想する。</p>		<p>日本の表現形式のよさを生かした発想をし, 日本的で自分らしい美しい表現の構想をすることができる。</p> <p>Aとするキーワード ・心豊かな ・独創的な ・構想を練る</p> <p>アイデアスケッチの数や描いてあるものの内容や構成の仕方などから判断する</p> <p><この状況の生徒への手だて> 発想・構想のわからない生徒には興味・関心を示す作品の模倣や資料を活用するなど具体的な方法を助言し, 少しずつ主題を固めさせる。</p>		
<p>5 6 自分の表現意図を明確にし, 日本の表現形式や表現方法のよさを生かして自分らしい表現を工夫し独自の世界を表現する。 ・学習した内容を生かしながら自分らしい表現を目指す。</p>	<p>表 意図に合った表現形式や表現方法で画面構成を工夫して, 主体的に取り組んでいる。</p> <p>Aとするキーワード ・多様な表現方法に挑戦 ・美を追求する姿勢</p> <p>活動状況や生徒との会話や自己評価カードによるメモから判</p>	<p>主題に基づいて単純化や省略, 構成の仕方などを工夫したり材料の組み合わせなどを工夫したりして豊かな発想・構想をすることができる。</p> <p>Aとするキーワード ・自分の意図を明確にして ・日本の表現方法を生かして</p>	<p>日本の独特で美しい表現方法や構成, 技法などを理解し, 独自の表現をすることができる。</p> <p>Aとするキーワード ・独創的で美しい表現 ・表現技法を工夫して</p> <p>作品による形や色の表現の状況から判断する 学期末テストでは描</p>	

<p>7 互いの作品のよさや美しさ，工夫点などを理解したり，価値意識をもって批評し合ったりして自分の見方を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの作品の鑑賞を通して，さらによくするための助言を考える。 <p>8 助言等から自分の作品を見直し，さらによいものにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちの意見を客観的に受け止め，取捨選択しながらよりよい表現を目指す。 	<p>断する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 独自の表現で美しく <p>スケッチの内容や自己評価カードの記載状況からその状況を見る</p> <p>学期末テストでは表現の発想や構想の状況を見る</p> <p><この状況の生徒への手だて></p> <p>再度資料を活用しながら，個別指導等で興味のあるものを選択させ主題を固めさせる。</p>	<p>写力を見る</p> <p><この状況の生徒への手だて></p> <p>よさを認め，個別指導して自信をもたせるとともに，イラスト的表現などを紹介するなどしながら描くことへの抵抗感を少なくさせるようにする。</p> <p>友だちの感想や助言などを基に多様に見方を深め，表現方法や材料などの生かし方を工夫し意図に合った色づかいや描写で創造的に表現する。</p> <p>Aとするキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現意図を考えて強調や省略を考え 表現方法や表現技法にこだわりをもち <p>作品の様子から意図に合った形や色づかいや描写で表現しているかどうかを判断する</p> <p><この状況の生徒への手だて></p> <p>自分の表現の中のよさを見付けさせ，納得できる表現になるよう個別に指導助言に当たる。</p>	<p>作者の意図を理解し自分の価値意識をもって批評することができる。</p> <p>Aとするキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な視点から 作者の意図を生かしながら 的確な <p>鑑賞カードにより個々への批評が的確であるかどうか，よさを認めているかどうかを判断する</p> <p><この状況の生徒への手だて></p> <p>作者の表現のよさや工夫点を一つ一つ見いだせるよう箇条書きさせながら確認させる。</p>
<p>作品からの評価</p>	<p>題材の評価規準</p>			<p>感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと，夢や心の世界を基に自分の表現主題に合うよう単純化や省略，強調するなどして，独創的で豊かな発想をし，心豊かで創造的な表現の構想をすることができる。</p> <p>日本の美術の多様な表現形式や構成，技法や新たな表現方法を研究したり，考えたことや想像したことなど心の世界をスケッチに表したり，主題を基に想像力や創造的な技能などを働かせたりして，創意工夫し創造的に表すことができる。</p>

4 観点別評価の進め方

美術の学習活動は、特に表現については、生徒一人一人が自分の表現意図（主題や心）をどのような方法でどのように表現するかという“自分の表現したいこととそれを適切に表現する構成員や表現技能”の総合力の発揮によって成り立つ。したがって評価の観点のうち、特に「発想や構想の能力」や「創造的な技能」については、表現意図に十分な表現がなされたかどうか、どのような心が表現できたか、そのためにどのような創意工夫をしたか、表現方法が自分の主題に合っていたかどうかなどについては教師の主観的な見方からの評価では十分には読みとれないことも多くあることから、学習指導要領の目標や内容から導き出した評価規準によって可能な限り客観的に評価していくことが大切である。また、観点に基づく生徒の自己評価なども参照するなどの工夫も大切である。さらに、題材によってはでき上がった作品や研究レポート、テストなど多様な評価対象によって評価していくことも工夫したい。本事例においては、完成した作品の全体的な出来具合から「発想や構想の能力」と「創造的な技能」の二つの観点について評価を加えている。

また、生徒のよさを見出し、学習への取り組みの意欲・態度、自己実現の喜びや作品への愛着、美術を愛好していく心情などを育て、積極的に評価し励ましていく観点から、学習過程における評価の単純な合計のみならずでき上がった作品や自己評価の情報から過程における評価データを補正したり、生徒の変容・成長が見られる場合にはその後の評価で補正するなどの工夫をしていくこともある。

指導の過程で絶えず生徒の活動や学習状況を観察・評価しながら、その学習過程で実現状況が「C 努力を要する」状況にあると判断される生徒に対しては、その学習内容によっては生徒が希望や意欲をもって自分に合った学習をして「B」に近づけるよう、可能な限りその場でいねいに教えアドバイスしたり、習熟学習をさせたり、進歩を見出し励ましたりするなど個別指導の手だてを講じていく必要がある。そのことによって教科目標にある「創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てる」ことになるのであり、そのような指導が「指導と評価の一体化」ということである。

なお、教科目標のうち「感性」や「豊かな情操」が養われたかどうかについては、感性とは「様々な対象・事象などからよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力」、情操とは「美しいものやよりよいものに憧れ、それを求め続けようとする豊かな心の働き」(文部省発刊 中学校学習指導要領解説「美術編」10, 11 ページ)を指すものであり、楽しく喜びをもって表現・鑑賞やものを観察する活動に積極的・追求的に取り組み、よさや美しさなどの価値を感じ取り味わったり、美に憧れ美しさをつくり出したりするといった美術の活動を通して総合的に養われ、学習活動に取り組む意欲・態度・表情・言葉、五感による気づきや感受、表現・鑑賞に向かう関心・意欲・態度、発想や構想の内容、表現作品の色彩や形・表現方法の工夫、作品全体の醸し出す雰囲気、鑑賞の感想など、学習過程の様々な活動の場を通して四つの観点すべてに表れるものであり、それぞれの評価場面で評価規準に則り判断できる。4つの観点が全体的に実現している状況がすなわち感性や情操が豊かに養われている状況であると判断できる。

評価していく上で「A 十分満足できる」と判断する際の基準については「Aとするキーワード」として、「C 努力を要する」と判断される生徒に対する指導の手だては「Cの状況の生徒への手だて」として、前項の「3 指導と評価の計画」の中の各評価場面ごとに示してある。

5 本題材における観点別評価の総括

(1) 評価の手順

本題材では、各評価場面で観点ごとに評価規準に基づきA B Cの3段階で評価したものを合計して「観点ごとの総括点」を導きだし本題材における「観点別評価」としてA B Cで評価している。

評価の観点は各々の題材のねらいに即して設定し、その学習過程における評価項目数についても同様に設定する。本評価事例「3 指導と評価の計画」の中の学習活動の具体的な評価規準の欄の[, , ...]と、下表「評価表」の[, , ...]は、それぞれ対応している。

なお、本事例はわかりやすくするため評価を単純なA B Cのみで行い、その合計によって題材としての総括評価を導き出しているが、題材によってはA° B° など中間の付加的な評価をしたり、育てる能力の目標の重点を置いた場合などはA B Cを数値に置き換えた上で、例えば1.2倍するなど評価の重点化をしたり、目標や題材に充てるの時間数の長さ、学習活動の活動量や仕事の密度、学習によって身に付けるべきことの質の深さなどによって評価の仕方や比重の置き方に軽重を付けるなど、柔軟かつ様々に工夫していくことが大切である。

(2) 各観点の評価の考え方

「美術への関心・意欲・態度」は、「美術を愛好する心情を育てる」ため、各時間を通じて継続的に発揮されることが大切であり、実現状況を全学習活動を通じて継続的に評価する。

学習の進み具合や学習活動の深まりにはかなり個人差がみられるので、本題材で示した評価目標（題材ご

との評価規準)をどれだけ実現したかを評価するためには、計画された一定の評価場面でだけで評価するのではなく、一人一人の生徒の学習の学習の進み具合などを見ながら適切な機会に評価していくなど柔軟な配慮が必要である。

完成した作品により総合的な見地から「発想や構想の能力」「創造的な技能」について再度評価することも工夫されてよい。

(3) 本題材の評価及び評価の総括例

氏名	関心・意欲・態度			発想や構想の能力				創造的な技能				鑑賞の能力			
	学習活動における具体の評価規準			学習活動における具体の評価規準		作品からの評価		学習活動における具体の評価規準		作品からの評価		学習活動における具体の評価規準		評価	
			評価				評価				評価				評価
あ	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B
い	B	B	A	B	B	A	A	A	B	A	A	A	B	B	A
う	C	C	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B
え	B	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A
お	B	A	B	B	B	A	B	B	B	A	B	B	B	B	B

なお、上記に示した総括の仕方以外にも、「発想や構想の能力」「創造的な技能」は学習過程が進むにつれて高まりや深まり巧みさなどが増す形成的な要素も大きいことから、後の評価規準で高い評価を得たときにはその高い評価の方を適用するなど、実現状況の評価を適切に補正することも考えられてよい。

(4) 本題材の各学習活動における評価点

各学習活動における評価は、上記の表においてはA B Cの3段階で評価しまとめたが、「3」「2」「1」の点数に換算したり、「」やチェックの記号で記録したりするなど各学校の実態に基づいて評価が多様かつ効率的にできるように工夫する必要がある。なお、題材によっては生徒の実態や学習内容などから4つの観点のうち、特に重視すべき観点には重み付けをして評価AをA⁺とするなど、目標の実現状況の評価に合った評価をするようにしたい。

本事例では総括の評価点を次のように出している。

- ・ A A A , A A B の場合 「 A 」
- ・ A B B , B B B , B B C , A B C などの場合 「 B 」
- ・ B C C , C C C の場合 「 C 」

なお、A B Cの3段階の評価に加えて、A⁺ B⁺ C⁺ など中間的な段階を加えた評価などの場合には、更に細かい総括の仕方を用意す必要がある。

(5) テストによる評価の扱い

テストについては、学期ごとに他の題材の内容とまとめて実施されることが多いためここでは取り上げていないが、実技テストによる課題に対する発想や構想の能力、基礎的技能や創造的技能、鑑賞問題における作品や美術文化の理解と感受、さらにはそれら全般に表れる美術の学習に取り組む関心・意欲・態度の状況など4つの観点すべてにわたって実現状況を見て取れるものも多くあることから、生徒の学習状況と成果を幅広く読み取るための評価の大切な機会の1つととらえ、テストで問う学習内容を4つの観点に基づいて評価の仕方や配点を決め、学習の成果を適切かつ客観的に評価していく必要がある。

なお、この外にも、題材における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において教育課程や学習指導計画、生徒の実態等に応じて工夫することが望まれる。